

筑波大学の大学院構想に関するアンケート

筑波大学在学生の皆さんへ

本学大学院では、2020(平成 32)年 4 月から、研究科・専攻といった組織体制を基盤にした日本の従来型教育システムから、国際的通用性のある「学位プログラム制(学位を与える課程)」へ移行する準備を進めており、そのために、大学院組織の改組再編を予定しています。具体的な構想内容はスライドのとおりです。

この新しい大学院構想について、2020 年度以降に、大学院課程(修士、博士前期・後期、一貫制博士、3 年制博士)への進学を目指す学生の皆さんの意見をお聞かせいただき、魅力ある大学作りのための参考とさせていただきたく、アンケートを実施します。積極的なご協力をお願いいたします。

なお、本アンケートは、文部科学省へ提出する書類の中で、大学院改組に向けたデータとして活用するものとし、その目的以外に使用することはありません。

問1 あなたの所属をチェックしてください。

- 1 人文・文化学群、 2 社会・国際学群、 3 人間学群、 4 生命環境学群、
 5 理工学群、 6 情報学群、 7 医学群、 8 体育専門学群、 9 芸術専門学群、
 10 人文社会科学研究科、 11 ビジネス科学研究科、 12 数理物質科学研究科、
 13 システム情報工学研究科、 14 生命環境科学研究科、 15 人間総合科学研究科、
 16 図書館情報メディア研究科、 17 教育研究科、 18 グローバル教育院

問2 あなたの学年をチェックしてください。

- 1 学群 1 年、 2 学群 2 年、 3 学群 3 年、 4 学群 4 年、 5 大学院(修士、博士前期)1 年
 6 大学院(修士、博士前期)2 年または博士後期 1~3 年、 7 その他(科目等履修生、研究生等)

問3 学群 1~3 年次生の方のみお答えください。

本学の新しい大学院構想を踏まえた上でお答えください。

あなたは卒業後(2020 年 4 月以降)に、大学院への進学を考えていますか。

- 1 本学大学院(修士、博士前期、一貫制博士)への進学を考えている
 2 国内の他大学院(修士、博士前期、一貫制博士)への進学を考えている
 3 海外の他大学院(修士、博士前期、一貫制博士)への進学を考えている
 4 学群卒業後は、進学せず就職を考えている

問4 問3で「1 本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。

進学を希望する新しい組織(研究類(仮称))にチェックしてください。(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 人文社会科学研究類	<input type="checkbox"/> ビジネス科学研究類	
<input type="checkbox"/> 数理物質科学研究類	<input type="checkbox"/> システム情報工学研究類	<input type="checkbox"/> 生命地球科学研究類
<input type="checkbox"/> 人間総合科学研究類		

問5 問3で「1~3: 進学を考えている」という方に質問です。

あなたは修士(博士前期)を修了した後に、博士後期への進学を考えていますか。

- 1 本学大学院(博士後期、3 年制博士、一貫制博士 3 年編入)への進学を考えている
 2 国内の他大学院(博士後期、3 年制博士、一貫制博士 3 年編入)への進学を考えている
 3 海外の他大学院(博士後期、3 年制博士、一貫制博士 3 年編入)への進学を考えている
 4 博士後期への進学は考えていない

参考

学生アンケート実施時に用いた説明資料
(平成 31 年 2 月時点)



筑波大学大学院の教育改革

—学際性と国際性に対応する学位プログラム制へ—

（構想案）

筑波大学特命教授・学長特別補佐 沼田 治



本資料の内容は、現時点の構想段階のものであり、今後変更する場合があります。
（2019年度に文部科学省への設置申請手続きを行う予定）

筑波大学の使命

建学の理念、

「変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発」

この理念の下に改革を推進する。



改革のビジョン

「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出」を目指す世界的な教育研究拠点として、あらゆる壁（国境、学問分野、学内組織、機関等）を取り払い、絶えず新たな学問領域を切り拓く研究型総合大学として社会に貢献する。

第3期中期目標期間（2016～2021年度）において、「学際性」と「国際性」を両輪とし、大学のグローバル競争力の強化と、学生本位の視点に立った教育のための環境整備を改革の柱とする。

改革の方向性

1. 産業界等、社会ニーズ

「高等教育に関するアンケート(2018年4月17日:経団連実施)」より

技術革新が急速に発展する中、自らの問題意識に基づき課題を設定し、主体的に課題を解決する能力を持つ人材の育成が求められている。

そのために、大学は教育改革により、「**イノベーションを起こせるリーダー人材**」を育成すべきとの意見が多い。

また、今後の大学のあり方や規模については、大学ごとの特色を打ち出し、優秀な外国人教員を招聘する等、「**大学の特色を活かした多様な教育と、様々な学生を受け入れる体制を整備すること**」が求められている。



IMAGINE THE FUTURE. 3

2. 社会ニーズを踏まえた2020年度からの構想(案)

<学位プログラム制への移行 その1>

組織中心の教育から、学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力が明示され、それを修得するように体系的に設計された「学位プログラムに移行」する。

学位プログラムとは、

学位に相応しい教育課程の編成が、

1. **人材養成目的**

2. **ディプロマポリシー** (DP; 卒業認定と学位授与の方針)

3. **カリキュラムポリシー** (CP; 教育課程編成と実施の方針)

4. **アドミッションポリシー** (AP; 入学者受け入れの方針)

に沿って体系的に構築され、

修了時に身につく知識・能力(コンピテンス)

が修得できるよう設計された**教育プログラム**である。

<学位プログラム制への移行 その2>

まず、硬直した縦割り組織中心の教育から脱却するために、大学院組織の改組再編を行い、「教育組織」と「教員の所属組織」を分離する。

具体的には、現在の「8研究科・83専攻」→「3研究群(研究科相当)・6研究類(専攻相当)」に組織を大括りし、必要な学位プログラムに適切な教員配置を行うことで、学生により良い教育を提供する。

これにより、

- ・学位に相応しい教育課程に整理するため、「一学位・一学位プログラム」となる。
- ・現在、専攻の中で複数の学位を出しているところは、学位の一本化、もしくは複数の学位プログラムに分ける等の対応をしている。(p21-22を参照)

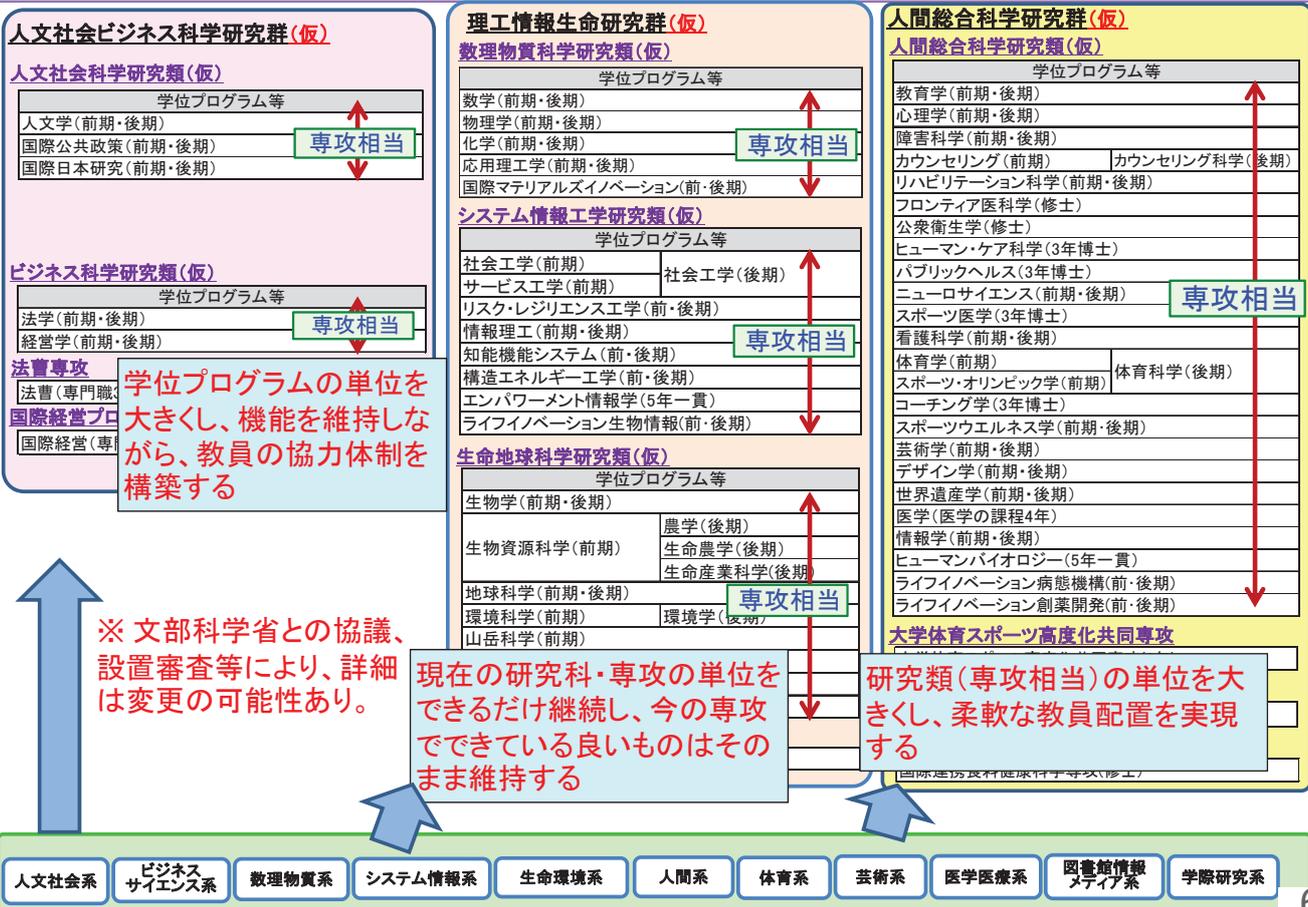
「教育組織」は、「3研究群(研究科相当)・6研究類(専攻相当)」

「教員の所属組織」は、11個の「系」

(注. 平成30年2月に「学際研究系」が11番目の系として位置づけられた)

5

現時点の構想案「3研究群(研究科相当)・6研究類(専攻相当)」 入学定員・収容定員は調整中



現在の構想に至るまでの 本学の歩み(2012～2018年度) について説明

7

3. 社会の動向を踏まえた本学のこれまでの動き

本学では、経団連のアンケート(2018年4月)で求められているような「イノベーションを起こせるリーダー人材」育成を目指し、2012年から、学位プログラム(学生本位の視点に立った学修の実現)を実施・運営している。

具体的には、博士課程教育リーディングプログラムの公募を機に、学位プログラムの実施・運営を目的として「グローバル教育院」を設置し、「分野横断的な学位プログラム」を開設している。

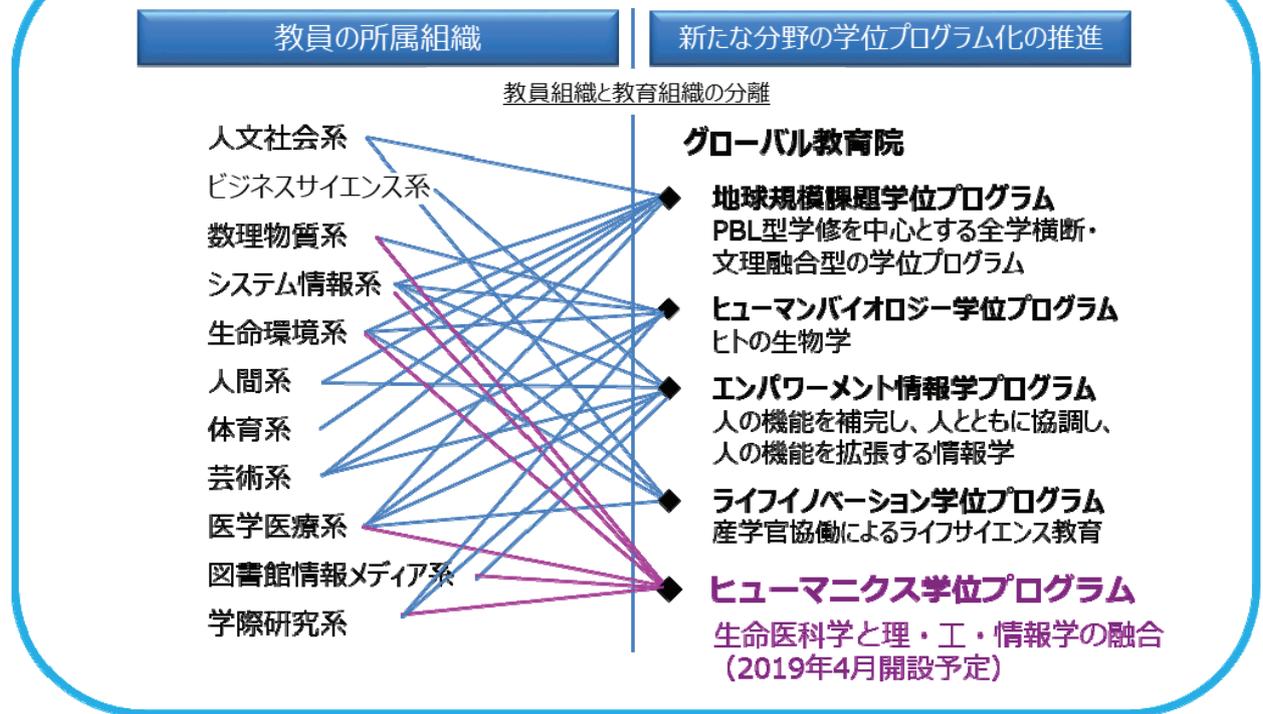
<グローバル教育院に置く学位プログラム 2012年度～>

- 2012年度～：ヒューマンバイオロジー学位プログラム(HBP)
- 2014年度～：エンパワーメント情報学プログラム(EMP)
- 2015年度～：ライフイノベーション学位プログラム(T-LSI)
- 2019年度開設予定：ヒューマニクス学位プログラム(卓越大学院プログラム)

※いずれの学位プログラムも「グローバル教育院(School of Integrative and Global Majors:SIGMA)」に置かれ、複数研究科を横断し複合分野で構成、かつ、全てが英語のみで学位を取得できるプログラムである。

グローバル教育院に置く学位プログラムと系(教員組織)との関係

分野の壁を超えたトランスボーダーな教育研究を実現



9

< 2014年度～ 既存研究科の学位プログラム化を推進 >

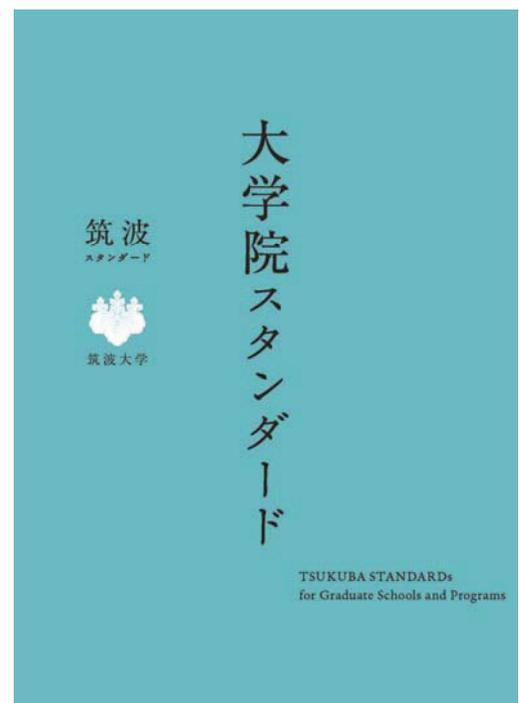
グローバル教育院での実績を踏まえ、2014年度から、学位プログラムの精神を研究科・専攻で、活かす取り組みをした。

■ 2014年度

「大学院スタンダード」を学位別に整理して、学位毎に人材養成目的と3つのポリシーを明確化した。さらに、専攻の組織を変えずに、専攻の教育課程を学位プログラムにする方針を定めた。

■ 2015年度～

前年度の方針の下、専攻内の教育課程編成等を学位プログラムの形に整理し、充実させた。



< 効果と課題 >

2012～2015年度までの取組みで、**学内の学位プログラムに対する理解と関心は深まった。**

しかしながら、様々な課題に対応するために学位プログラムを編成しようとしても、**現在の縦割りの専攻組織では、効果的な編成ができない。** ----->

つまり、社会の要請に合わせて**新しい学位プログラムを設置しようとしても、組織の壁があると、作り上げるまでに膨大な時間がかかり、スピード感ある対応が難しい。**



縦割りの専攻組織

(研究科・専攻)	
人文社会科学研究科	
前期: 4専攻	後期: 3専攻
一貫制 : 3専攻	
ビジネス科学研究科	
前期: 2専攻	後期: 1専攻
専門職: 2専攻	
数理物質科学研究科	
前期: 5専攻	後期: 7専攻
システム情報工学研究科	
前期: 5専攻	後期: 5専攻
生命環境科学研究科	
前期: 4専攻	後期: 9専攻
一貫制 : 1専攻	
人間総合科学研究科	
前期: 11専攻	後期: 13専攻
共同専攻(修士): 1専攻	共同専攻(博士): 1専攻
一貫制(医学の課程) : 2専攻	
図書館情報メディア研究科	
前期: 1専攻	後期: 1専攻
教育研究科	
修士 : 2専攻	

11

4. 2016年度からの検討状況(現構想案)

「全学で学位プログラム制に移行する」という目標を掲げ、検討を開始

< 本学の将来構想 >

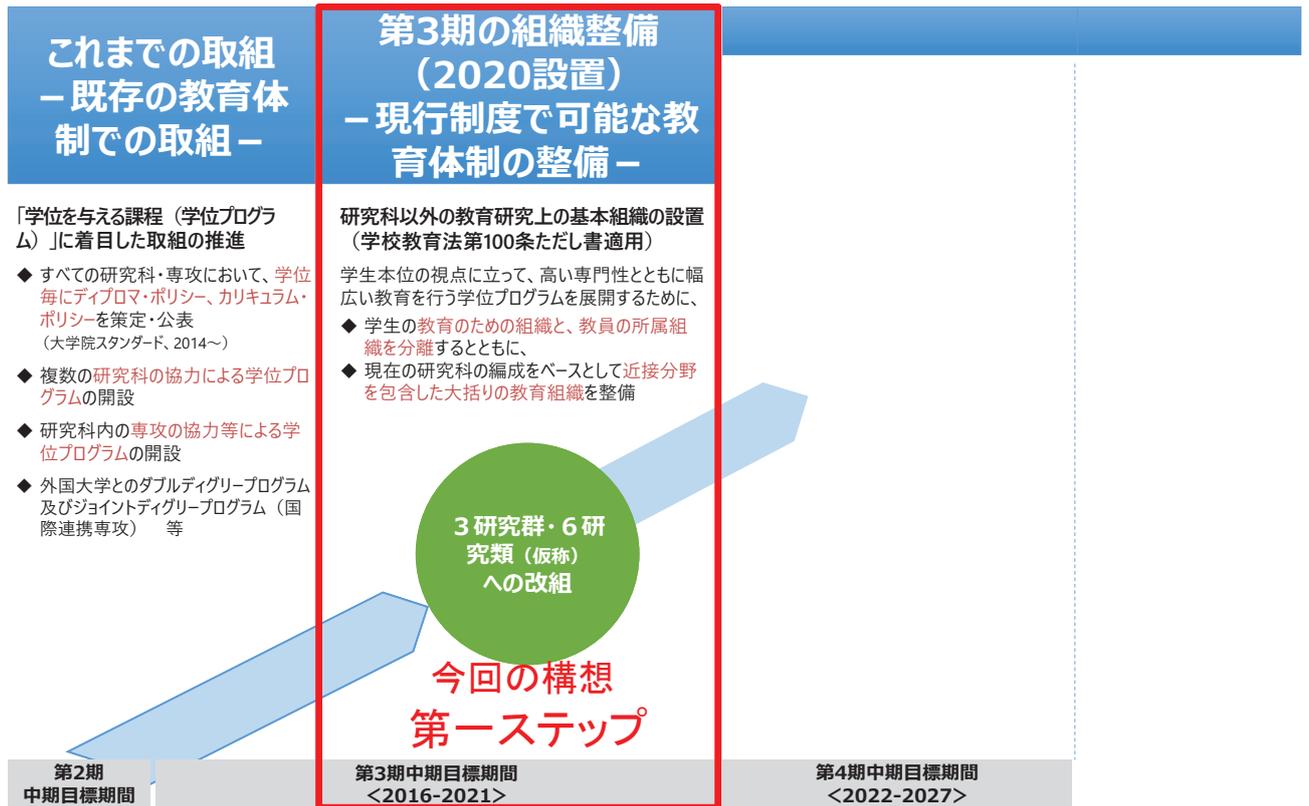
大学全体で **真の学位プログラム化を実現**するため、教育組織の壁を取り払い、大学の特色を活かして様々な教員が集結できることを目指し、**「大学院を一研究科相当の組織」**を2016年度に構想し、検討をスタートした。

< 将来構想の実現に向けた第一ステップ >

大学院一研究科構想で検討を進めたが、文科省との相談(2017年)で、**現行法令では、大学院の組織は適切な規模である必要がある**と指摘を受けたため、最終目標に向かう**第一ステップ**として、**3研究群・6研究類の構想(2020年度設置予定)**に計画を変更した。

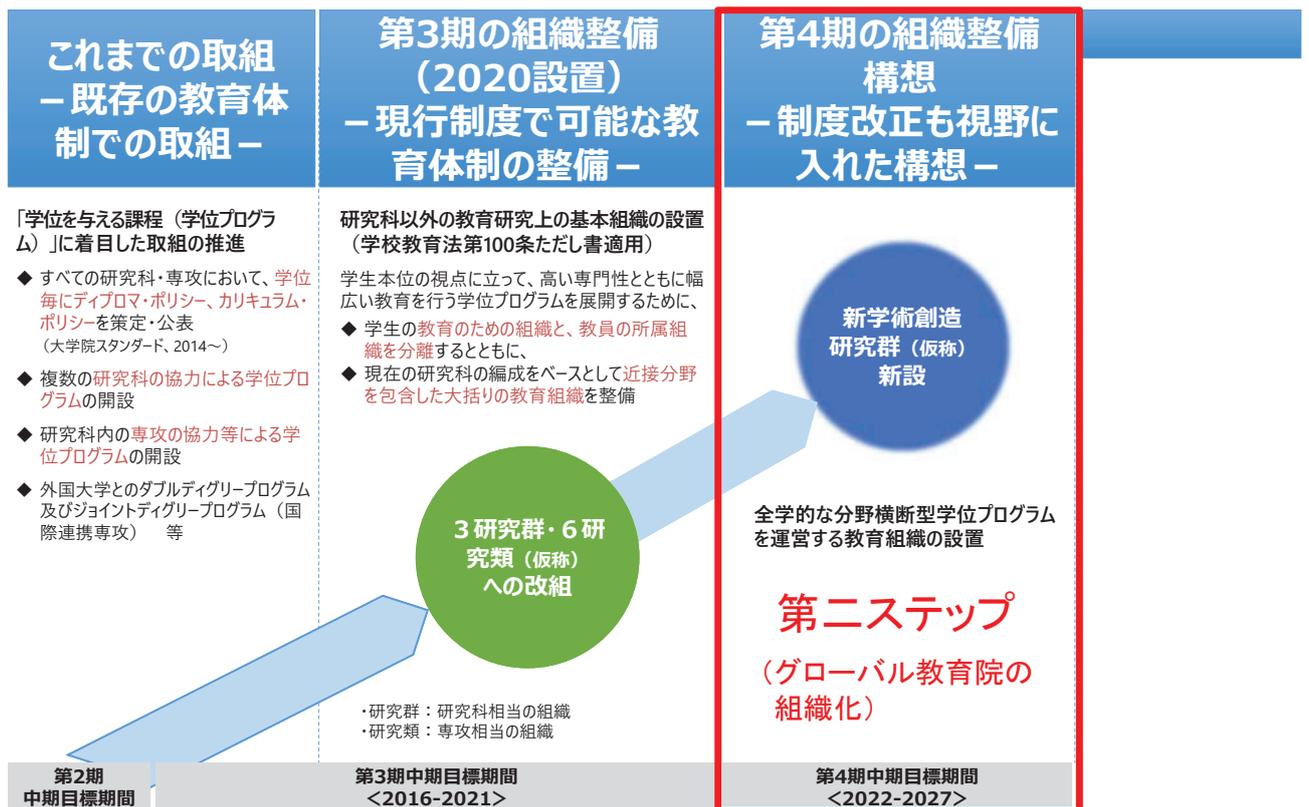
筑波大学大学院の改革ビジョンと第3期以降の組織整備の位置づけ

－開かれた教育体制の下で、学生の個性と能力を開花させる学位プログラムの展開に向けて－



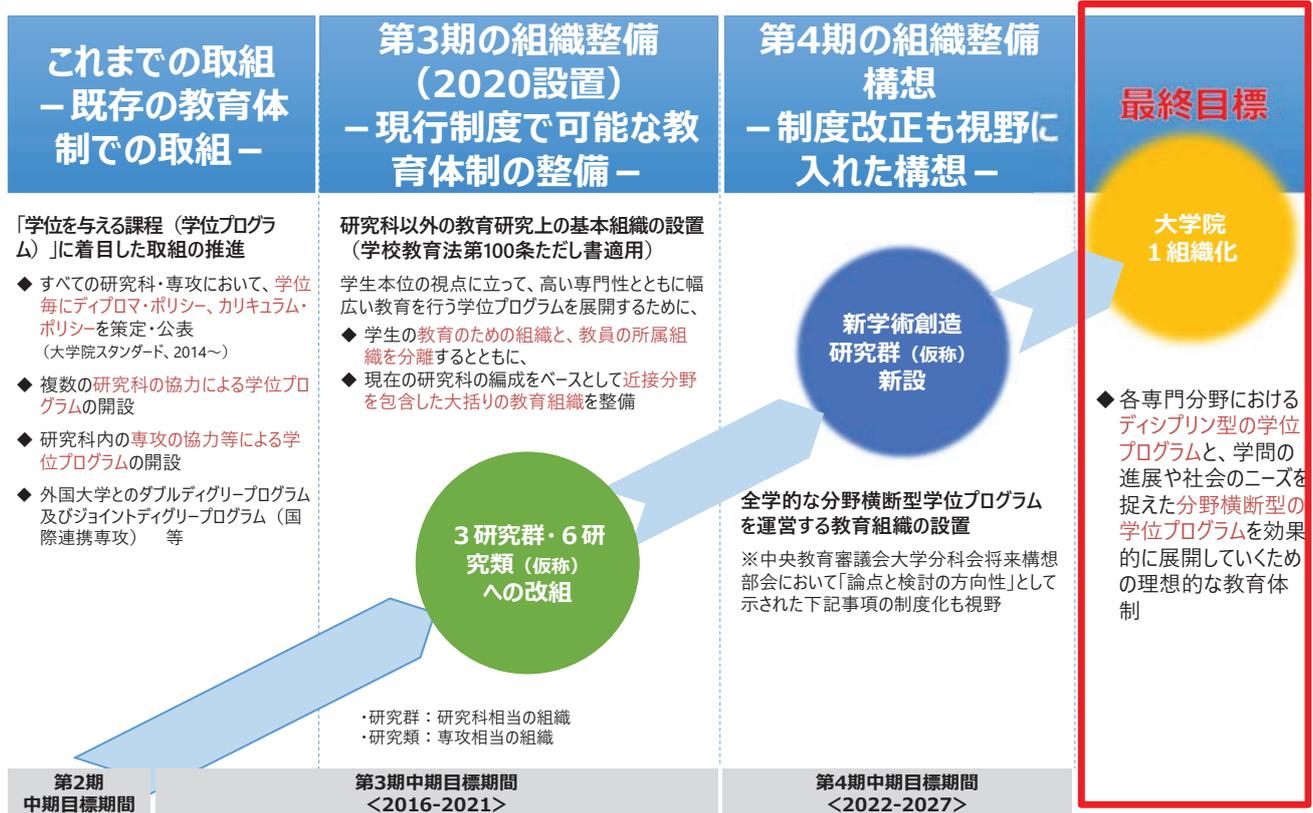
筑波大学大学院の改革ビジョンと第3期以降の組織整備の位置づけ

－開かれた教育体制の下で、学生の個性と能力を開花させる学位プログラムの展開に向けて－

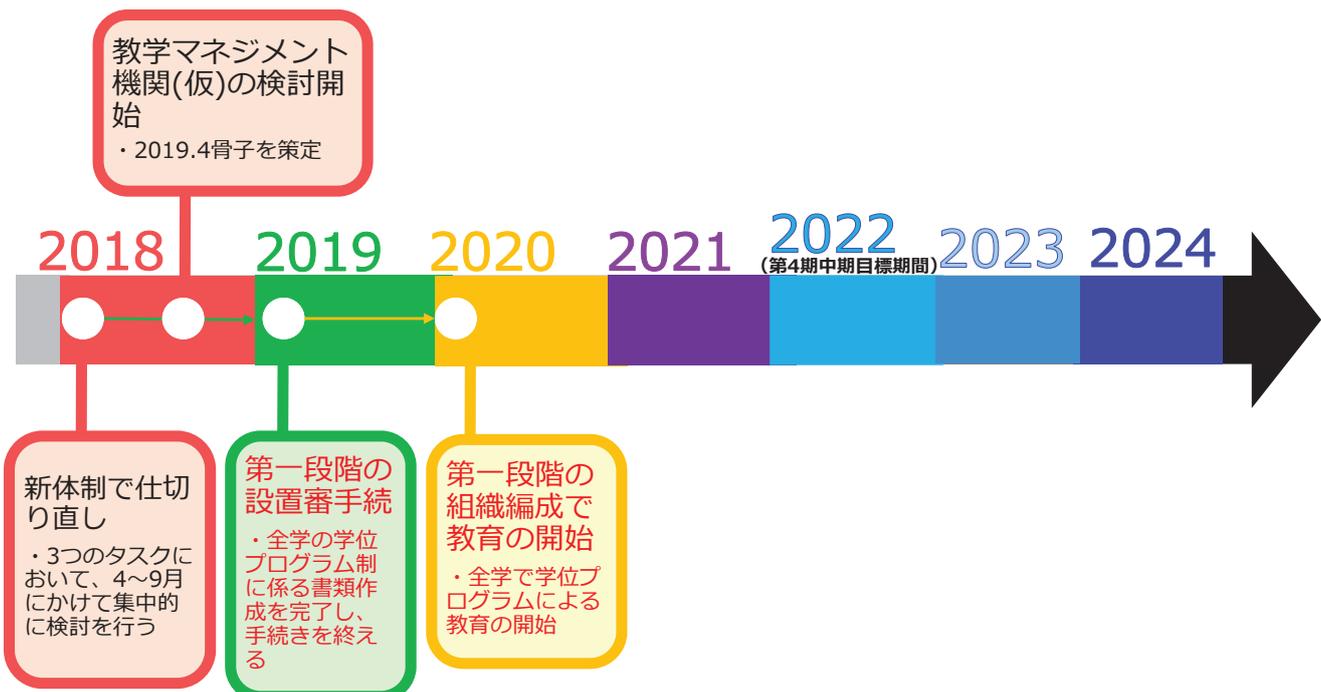


筑波大学大学院の改革ビジョンと第3期以降の組織整備の位置づけ

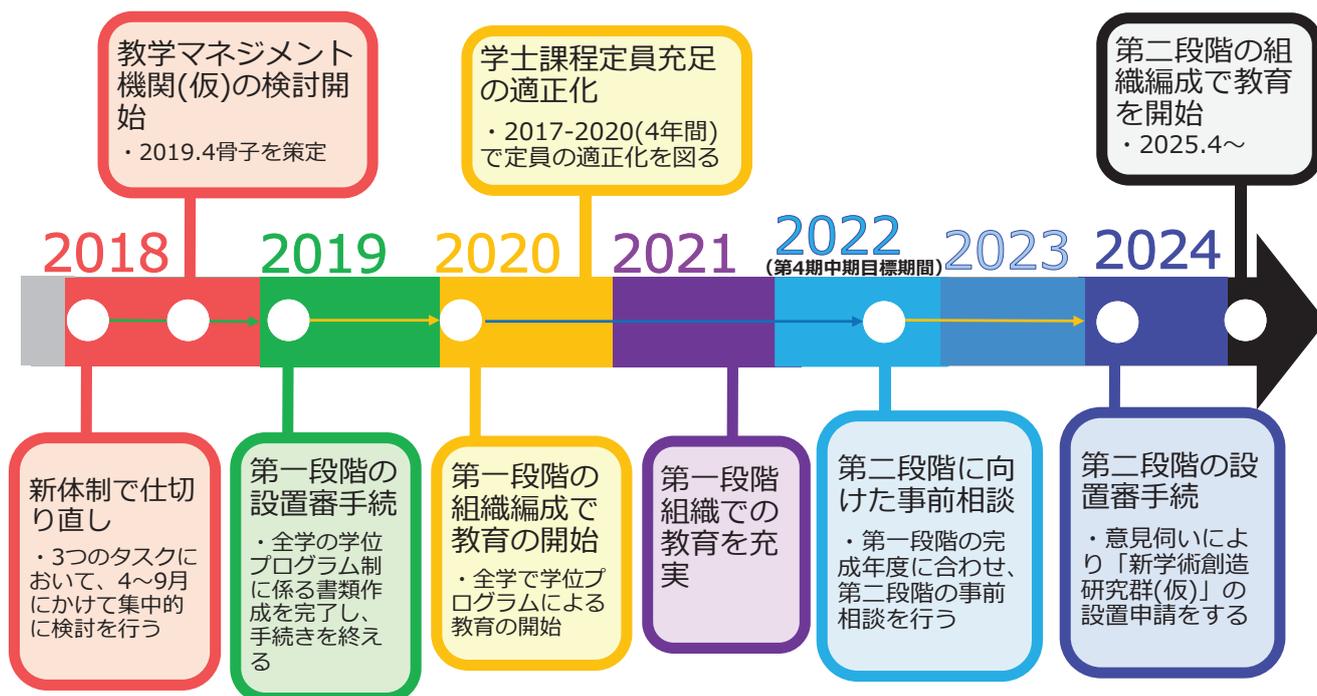
－開かれた教育体制の下で、学生の個性と能力を開花させる学位プログラムの展開に向けて－



大学院改組に係るロードマップ（2020設置まで）



大学院改組に係る ロードマップ (2025までの計画案)



17

第一ステップとしての

「3研究群・6研究類」構想について